

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
照明デザイン2		インテリアデザイン学科/2年	2019/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	39回	3単位(39時間)	選択	小田綾子 (実務経験有)
授 業 の 概 要				
光とは何か?からRGBを使った実験などを通じ自然光を考え、照明器具を知ることによって人工光を知る。生活における光の役割、建築と光の関係を説き、照明計画の考え方を教える。住宅の照明計画を実施。JW-CADを使った配線図作成、照度計算ソフトによる3Dシミュレーション、言葉の構築などプレゼンテーションに必要な表現のスキルを習練する。 【実務経験】照明デザインアトリエ (株)ティカ .ティカ 代表/照明デザイナーの経験を活かし、照明計画の考え方やプロセスおよびプレゼンテーション技術を教える。				
実際のプロジェクトさながらに手順を踏んで進めることで実践能力をつけ、的確に伝える技術を養う。「照明デザインは任せて！」と言える自信をつける。				
回	テ ー マ	内 容		
1	言葉で表現する照明デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・プロフィール作成 ・照明デザインという仕事について ・光の建築を鑑賞して光を言葉で表現する 		
2	光とは何か？自然光と人工光	<ul style="list-style-type: none"> ・光のスペクトルをのぞいてみる ・色の付いた影をつくる、RGB遊び ・土地を読んで光と影の脚本を描く(練習課題) 		
3	照明器具はすぐれた道具	<ul style="list-style-type: none"> ・照度データの見方、照度計算の概要 ・照明器具の特性 ・配光をイメージする演習 		
4	照明メーカー(Panasonic・ヤマギワ予定)ショールーム見学	<ul style="list-style-type: none"> ・実物の照明器具の迫力、空間と光の関係を体験する 		
5	照明計画	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋別 部位別 用途別での考え方 ・建築化照明の使い分け ・課題説明、住宅の照明計画 		
6	照明計画	<ul style="list-style-type: none"> ・クライアント設定 ・光のコンセプト ・展開図で考える照明計画 ・器具選定とデータ収集 		
7	配線図からプレゼンボードをつくる 配線図(評価対象)	<ul style="list-style-type: none"> ・JW-CADをつかった配線図作成 ・配線図からレイアウト図をつくる ・外部専門講師によるJW-CAD講習 		
8	Dialuxによる3DCG制作	<ul style="list-style-type: none"> ・操作説明 ・空間作成、IESデータ取り込み配置、照度確認 		
9	Dialuxによる3DCG制作	<ul style="list-style-type: none"> ・操作説明 ・空間作成、IESデータ取り込み配置、照度確認 		
10	Photoshopによる照明イメージ制作	<ul style="list-style-type: none"> ・写真データに光を表現したプレゼン資料をつくる ・外部専門講師による講習 		
11	コンセプトに沿った照明計画	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトが見える照明計画の確認 ・器具配線図、配線図、CG製作 ・プレゼンテーション資料作成 		
12	コンセプトに沿った照明計画 プレゼンテーション(評価対象)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトが見える照明計画の確認 ・器具配線図、配線図、CG製作 ・プレゼンテーション資料作成 		
13	プレゼンテーション(評価対象)	<ul style="list-style-type: none"> ・クライアントへのプレゼンテーション、考察 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書:超実践的 住宅照明マニュアル 資料:メーカーカタログ配布 教材:色鉛筆		授業態度(出席を含む)	30.0%	人の暮らしや経済活動には欠かすことのできない照明の設計を学びます。 【準備学習】 授業での学びを日常に落とし込んだイメージをし、「私ならこうする！」という目線で照明を見て行きましょう。
		課題・レポート	70.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／期	授業形態
設備		インテリアデザイン学科／2年	2019/後期	講義
授業時間	総回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
50分	15回	1単位(15時間)	必須	野崎俊佑(実務経験有)
授 業 の 概 要				
<ul style="list-style-type: none"> ・建築物の設備の目的・役割や、設備それぞれのメリットデメリットを学ぶ。 ・意匠設計、建築インテリアデザインの立場から見た、建築設備の勘所を知る。 ・地球環境に配慮した設備デザインの手法を学習する。 ・【実務経験】一級建築士として13年の勤務経験 NOZa-maruでの設計監理の経験を活かし、設計者としての考え方および技術を伝授する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・建築設計において、設備システムや環境諸条件を配慮した設計を行うための思考力の習得。 ・実務において設備設計者とのコミュニケーションを円滑に進めるための基礎知識の習得。 ・建築士資格や建築設備士取得のための設備に関する基本的知識の習得。 				
回/週	テ ー マ		内 容	
1	後期授業概要説明		建築設備の全体像 建築計画、建築環境と設備のマッチング 地球環境問題と建築、設備	
2	電気設備-1		電気設備の概要 発電、送電、受変電、動力、電灯、コンセント	
3	電気設備-2		弱電、情報関連設備 照明のエコ、シミュレーション	
4	電気設備-3		電気設備とデザイン、環境利用	
5	空気調和設備-1		空気調査設備の概要 気流分布、温熱環境、空調方式、空調制御、熱源方式	
6	空気調和設備-2		換気 空調のエコ、シミュレーション	
7	空気調査設備-3		空気調査設備とデザイン、環境利用	
8	給排水衛生設備-1		給排水衛生設備の概要 給水、給湯、排水、ガス	
9	給排水衛生設備-2		衛生のエコ 給排水衛生設備とデザイン、環境利用	
10	防災設備		消火設備、警報設備、避難設備、排煙設備 建築基準法、消防法との関係 防災設備とデザイン	
11	昇降機設備・機械式駐車設備		エレベーター、エスカレーター、ダムウエーター 昇降機設備とデザイン 機械式駐車設備のバリエーション	
12	設備設計と監理		設備設計における図面表現 設計上、監理上の留意点	
13	設備のエコ、環境性能評価		パッシブデザイン、建築計画とエコ 環境性能評価の手法	
14	維持管理、メンテナンス、更新		設備の耐用年数とメンテナンス 建築計画と更新性、更新時の配慮	
15	まとめ 設備と建築計画		建築物に求める環境性能、建築計画にとって適切な設備設計 意匠設計、建築インテリアデザインの立場から見た、建築設備	
教科書・教材		評価基準	評価率(%)	その他
デザイナーのための住宅設備設計術 適宜配布資料、映像資料等を提供		出席率・授業態度	50	【準備学習】 講義内容、GW課題について、専門雑誌やweb等でリサーチをしておくこと。
		レポート	50	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
卒業制作		インテリアデザイン学科/2年	2019/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
50分	90回	6単位(90時間)	必須	松尾兆郎(実務経験有)
授 業 の 概 要				
2年間の総括として自分でテーマを決めてそれについて設計し、発表を行う。				
【実務経験】ゼネコン設計部の経験を活かし、建築・インテリアの設計の知識と技術を教える。				
授業終了時の到達目標				
自分でテーマを決めて、コンセプトに沿って設計をまとめることができる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	授業概要説明	テーマ設定のための調査		
2～30	デザイン案検討	コンセプト立案、エスキス、ラフ模型検討		
31～35	個別中間プレゼン	設計案を説明できる概要発表		
36～84	デザイン案検討	作図、模型製作、ボード構成		
85～90	最終合同プレゼン	完成模型、作品ボード		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題	80.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、授業内で指示する。
		出席	20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／期	授業形態
施工		インテリアデザイン学科／2年	2019/前期	講義
授業時間	総回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
50分	15回	1単位(15時間)	必須	野崎俊佑(実務経験有)
授 業 の 概 要				
<ul style="list-style-type: none"> ・建築物の新築工事、改修工事を中心とした施工全体の流れと、個々の施工段階の内容を学ぶ。 ・建築設計者の立場から見た、建築施工の勘所を知る。 ・建築に関わるステークホルダーとその相関関係を理解する。 ・【実務経験】一級建築士として13年の勤務経験 NOZa-maruでの設計監理の経験を活かし、設計者としての考え方および技術を伝授する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・設計者として施工に配慮した建築設計を行うための思考力の習得。 ・実務において施工者とのコミュニケーションを円滑に進めるための基礎知識の習得。 ・建築士資格や施工管理技士資格取得のための施工に関する基本的知識の習得。 				
回/週	テ ー マ		内 容	
1	前期授業概要説明		建築物施工の一連の流れ 建築に関わるステークホルダー 建築設計者の立場から、施工及び施工者に対する基本的な考え方	
2	内装仕上げ工事-1		壁、床、天井等の下地、仕上げ	
3	内装仕上げ工事-2		建具、ガラス、金属、造作、ユニット等	
4	設備工事、外構工事		電気、空調和、給排水衛生、昇降機・機械式駐車場、防災設備等 植栽、舗装、工作物、外構設備等 免震対応、ZEB、再生可能エネルギー	
5	外装仕上げ工事-1		屋根(防水、屋根)、外壁(RC、ECP、ALC、PC、CB)、断熱	
6	外装仕上げ工事-2		仕上げ(石、左官、タイル)、サッシ、カーテンウォール	
7	躯体工事-1		RC(型枠、鉄筋、コンクリート)	
8	躯体工事-2		SRC、S、地震に対応する技術	
9	改修工事		耐震改修、防水改修、外壁改修、設備改修、改修仮設 リニューアル、リノベーション、コンバージョン	
10	土工事		山留、杭、掘削	
11	工事管理		建築生産の流れ、工事に携わる人々と組織体制、ゼネコンとサブコン、建築施工の仕事、工程	
12	工事請負契約、積算		設計図書の役割、工事請負契約の構成、施工者の法的責任、発注形態、工事見積の構成、積算の考え方	
13	準備工事、解体工事		地鎮祭、調査、仮設工事、改修仮設 解体、建設産廃	
14	竣工、維持保全		検査、引き渡し、竣工式 LCC、竣工後の点検・保守、修理・修繕・更新	
15	まとめ 施工と設計の違い、施工者と設計者の違い		設計者から見た施工者、施工者から見た設計者 工事管理と工事監理、工事請負契約と設計監理契約 設計図を介した建築主、設計者、施工者の意思伝達	
教科書・教材		評価基準	評価率(%)	その他
施工がわかる イラスト建築生産入門 適宜配布資料、映像資料等を提供		出席率・授業態度	50	【準備学習】 講義内容、GW課題について、専門雑誌やweb等でリサーチをしておくこと。
		レポート	50	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
照明デザイン1		インテリアデザイン学科／2年	2019年/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
50分	39回	3単位(39時間)	選択	重川隆一 (実務経験有)
授 業 の 概 要				
照明器具の基礎となる光源と照明器具の特性について学び、主には実習を通して光の原理や現象あるいは海外のあかり文化を体験し、そこから照明効果への応用について理解を深めていく。【実務経験】照明メーカーに10年間勤務し、照明器具設計と照明デザイン業務に携わる。その後、照明デザインの会社を設立し、現在ではプロダクト開発まで手がけている。多岐にわたる実績から生まれた、光を楽しむという経験から照明を学ぶプログラムを実践している。				
授業終了時の到達目標				
照明の基礎とそれに関わる電気の安全知識について習得する。また、実習を通して光の効果を予測することを学び、空間認知を前提とした照明計画技術の基礎を習得する。後半の実習では様々なプロダクトの制作を通じて、楽しみや喜びに変わる光の体験によって光への興味をより深めることを到達目標としている。				
回	テ ー マ	内 容		
1-3	ガイダンス	照明に関わる様々な仕事についての紹介。光の基本的な特長について説明。		
4-6	照明に必要な電気の基礎知識	照明に必要な電気の基礎用語について解説。電気に関係する安全知識について説明。		
7-9	手づくり照明(ハウスランプ)の制作	照明器具の製作によって、最も簡単な白熱電球の点灯回路を理解する。光の効果を予測しながら照明器具を製作する。		
10-12	手づくり照明(ハウスランプ)の制作	照明器具の製作によって、最も簡単な白熱電球の点灯回路を理解する。光の効果を予測しながら照明器具を製作する。		
13-15	光源の基礎知識	白熱電球、ハロゲン電球、蛍光灯、LED電球の基本特性の説明。光源の進化を学ぶ。		
16-18	住宅照明計画のガイダンス	照明器具の種類と特長の説明。その適切な使い方を学ぶ。		
19-21	住宅の照明計画 実習	照明カタログの使い方を学び、平面図と立面図から空間認知し、照明計画をする。		
22-24	住宅の照明計画 実習	照明カタログの使い方を学び、平面図と立面図から空間認知し、照明計画をする。		
25-27	サンキャッチャーの制作から学ぶクリスタルガラス	サンキャッチャーの制作を通してクリスタルガラスの特長について学ぶ。		
28-30	ハーバリウムの制作から学ぶ光の屈折	ハーバリウムの制作を通して光の屈折を学び、照明器具への応用について理解を深める。		
31-33	トランスパレント・ペーパーから学ぶ北欧のあかり文化	ドイツや北欧で幼児教育の一環として体験するトランスパレントペーパーの折り紙を体験し、窓辺を彩り飾る文化について考察する。		
34-36	アロマキャンドルとアロマワックスバーの制作から学ぶあかりと香りのゆらぎ効果	あかりの揺らぎと香りによるヒーリング効果について理解する。		
37-39	あかりと人の健康について	前回のアロマキャンドル作りを通じて、あかりと健康について理解する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
授業内で配布、指示		授業態度(出席を含む)	40.0%	【準備学習】 授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常に準備しておくこと。
		課題・レポート	60.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
UD演習		インテリアデザイン学科/2年	2019/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
50分	78回	6単位(78時間)	選択	松尾兆郎(実務経験有)
授 業 の 概 要				
生活の中のモノ・環境を捉えながら、ユニバーサルデザインの特性を踏まえた住宅デザインを行う。UDを設計に活かすための手法を学ぶ。 【実務経験】ゼネコン設計部の経験を活かし、住宅におけるUD活用の技術を教える。				
授業終了時の到達目標				
UDのデザインプロセスを理解できる、と同時にUDを実践する基礎技術が身につく。				
回	テ ー マ	内 容		
1-3	授業概要説明			
4-6	疑似体験	車椅子、ロービジョン、全盲、指先巧緻性		
7-9	1 Day UD Design	身近なモノをUD視点で改善		
10-12	第1課題「UDの住宅」	課題説明		
13-24	1次案作成	資料収集(レポート) 提出		
25-27	中間プレゼン	まとめシート記入		
28-36	7原則自己評価			
37-39	1次案プレゼン	ボード提出		
40-42	7原則自己評価	デザインレビュー		
43-45	隅垣内 彰氏 特別講義 9/12	特別講義の振り返り		
46-54	改善デザイン	デザインレビュー		
55-57	2次案プレゼン	ボード提出		
58-66	改善デザイン	デザインレビュー		
67-69	3次案プレゼン	ボード提出		
70-75	改善デザイン	デザインレビュー		
76-78	プレゼン[最終案]	総括		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布プリント		授業態度(出席を含む)	20.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、授業内で指示する
		課題・レポート	80.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
インテリアコーディネート2		インテリアデザイン学科／2年	2019／通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
50分	90回	6単位(90時間)	選択	松原 綾(実務経験有)
授 業 の 概 要				
・住まい手に取って、使いやすく、住みやすい、快適な生活空間をプランニングするための基本的な考えかたを学ぶ。 ・住まい手のライフスタイル、価値観を元に調整しトータルインテリアコーディネーションを行う手法を学ぶ。インテリア構成要素を理解し、体系的なインテリアデザインを理解し、実践的なノウハウを身につける。 【実務経験】設計事務所「アトリエmican」主宰の経験を活かし、インテリアのトータルコーディネートのまとめ方、考え方、および作業プロセス及び技術を教える。				
授業終了時の到達目標				
・住まい手の与条件の整理と計画立案ができる。 ・空間の寸法、物と物、人と物、心理的な調整ができる。 ・インテリアスタイルに沿ったコーディネートができる。 ・第三者に伝達することができる(プレゼンテーション)				
回	テ ー マ	内 容		
1～18	課題① 資料配布、各自選択 1、リビング、ダイニングの改装計画 2、LDKのインテリア計画 3、菓子作り教室を併用した住居のリフォーム計画	1w:資料配布、課題の説明 2w:要求条件の整理～基本方針、エスキースシート作成、インテリアイメージの決定 3w:プレゼンボード、必要図面作成(平面図・展開図・パース4枚) 4w:プレゼンボード作成 5w:プレゼンボード作成 6w:合同プレゼン、提出		
19～45	課題② 1.キッズルームのインテリア提案 2.猫がいるインテリアの提案 上記課題より各自選択	1w:資料配布 課題説明 2w:プレゼンボード作成 3w:プレゼンボード作成 4w:プレゼンボード作成 5w:プレゼンボード作成 6w:プレゼンボード作成 7w:合同プレゼン (夏休み) 8w:プレゼンボード提出 9w:課題③説明		
46～60	課題③ インテリア産業協会 住まいのインテリアコーディネーションコンテスト 1、照明が映える私だけの空間 2、椅子が主役の、ユニークなリビング空間 上記課題より各自選択	1w:課題説明 2w:エスキース、スタディー模型、ラフプラン 3w:プレゼンボード作成図面(平面図、展開図)パース 4w:プレゼンボード作成図面(平面図、展開図)パース、タイトル・コンセプト・主たるインテリアエレメント 5w:合同プレゼン		
61～90	課題④ 卒業制作	1w:課題説明 2w:各自テーマ検討、方針決定 3w:卒業制作 4w:卒業制作 5w:卒業制作 6w:合同中間プレゼン 7w:卒業制作 8w:卒業制作 9w:卒業制作 10w:卒業制作		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書:すまいの寸法・計画事典、住まいとインテリア アクティブパース 課題資料・参考資料:プリント配布 教材:製図道具一式、模型制作道具一式		授業態度(出席を含む)	15.0%	住まいに関するインテリアを実践に即して提案できるようにする。 【準備学習】 ・自分の好きなモノやコト、趣味、興味ある事を知り、インテリアに反映できるよう意識すること
		課題・レポート	85.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
インテリアデザイン		インテリアデザイン学科/2年	2019/通年	講義、演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
50分	120回	8単位(120時間)	必須	松尾兆郎(実務経験有)
授 業 の 概 要				
住宅の空間構成手法とインテリア空間の設計手法を実践的に学ぶ。 設計をまとめるための計画する方法と技術を学ぶ。 【実務経験】ゼネコン設計部の経験を活かし、建築・インテリアの計画の知識と技術を教える。				
授業終了時の到達目標				
建築士・インテリアデザイナーとして必要な住空間・公共空間の計画と設計の知識と技術が身につく。				
回	テ ー マ	内 容		
1	授業概要説明	授業で対象とする住空間について概要を説明する		
2-5	講義:住空間の構成1～4	住空間の計画、形の発想、ライフサイクル、自然環境との共存		
6-10	講義:住空間構成手法1～5	事例研究を通じて手法を探る		
11-18	講義:各室の計画1～8	住空間の個々の機能空間を事例研究を通じて手法を探る		
19-21	講義:現代建築家の住空間1～3	巨匠をはじめとした建築家の事例研究を通じて手法を探る		
22-28	講義:インテリアとエクステリアの計画1～7	インテリアデザインの手法、エクステリアデザインの手法		
29	講義:日本の住宅リノベーション	リノベーションの事例研究を通じて手法を探る		
30	講義:仮設住宅	災害時対応の住空間の事例研究を通じて手法を探る		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
図解 住空間計画学 配布プリント		授業態度(出席を含む)	20.0%	【準備学習】 次回の授業内 内容を踏まえて、 授業内で指示 する
		課題・レポート	80.0%	

科目名	インテリア研究			必修・選択	担当教員	池田美和子 実務経験有	
学科・学年	インテリアデザイン			学科	2 学年	授業概要 インテリアについて研究題材を各自設定し、それについて研究を進め発表する。 【実務経験】 エクステリアデザイナーとしての勤務経験を活かし指導を進める。 【事前学習】 自身の興味関心のある分野をしっかりと見つけておく。	
授業数	3 時間 ×	13 週	合計 39 時間	3 単位			
授業期間	前期 ・ 後期 ・ 通年 ・ 集中						
授業形態	講義 ・ 演習 ・ 実習 （ 50 分/ コマ）						
教科書・教材							
評価基準	定期試験・臨時試験等			%	到達目標	物事を探求する姿勢やプレゼンテーション手法を身に付ける。 【事前学習】 自身の興味関心のある分野をしっかりと見つけておく。	
	課題・レポート			80 %			
	出席数・授業態度			20 %			
	その他（ ）			%			
回	時間	授業内容			回	時間	授業内容
1	1 2 3	授業概要説明 自己紹介			10	1 2 3	課外研究②
2	1 2 3	研究テーマについて 研究手法について 発表について			11	1 2 3	研究⑤
3	1 2 3	研究テーマ設定			12	1 2 3	中間発表準備
4	1 2 3	研究①			13	1 2 3	中間発表 中間講評
5	1 2 3	研究②			14		
6	1 2 3	課外研究①			15		
7	1 2 3	研究③			16		
8	1 2 3	途中経過確認 テーマ設定・研究手法再検討			17		

9	1 2 3	研究④	18		

科目名	インテリア研究		必修・選択	担当教員	池田美和子 実務経験有	
学科・学年	インテリアデザイン 学科		2 学年	授業概要	<p>インテリアについて研究題材を各自設定し、それについて研究を進め発表する。</p> <p>【実務経験】 エクステリアデザイナーとしての勤務経験を活かし指導を進める。</p>	
授業数	3 時間 × 13 週 合計 39 時間		3 単位			
授業期間	前期 ・ 後期 ・ 通年 ・ 集中					
授業形態	講義 ・ 演習 ・ 実習 (50 分/ コマ)					
教科書・教材						
評価基準	定期試験・臨時試験等		%	到達目標	<p>物事を探求する姿勢やプレゼンテーション手法を身に付ける。</p> <p>【事前学習】 自身の興味関心のある分野をしっかりと見つけておく。</p>	
	課題・レポート		80 %			
	出席数・授業態度		20 %			
	その他 ()		%			
回	時間	授業内容		回	時間	授業内容
1	1 2 3	前期内容のおさらい 後期内容の確認、進め方について		10	1 2 3	研究⑫
2	1 2 3	研究⑥		11	1 2 3	最終発表準備
3	1 2 3	課外研究③		12	1 2 3	最終発表 講評
4	1 2 3	研究⑦		13	1 2 3	まとめ
5	1 2 3	研究⑧		14		
6	1 2 3	研究⑨		15		
7	1 2 3	課外研究④		16		
8	1 2 3	研究⑩		17		

9	1 2 3	研究⑪	18		

科目名	ショップデザイン2			必修	選択	担当教員	土井久頭（実務経験有）	
学科・学年	インテリアデザイン			学科	2 学年	授業概要	店舗のデザイン・設計演習を行う。 各業種に必要な機能を理解しながら総合的な設計を行う。 【実務経験】ドイアンドパートナーズー級建築士事務所での設計の経験を活かし、設計プロセスを教える	
授業数	3 時間 × 15 週 合計 45 時間			3 単位				
授業期間	前期 ・ 後期 ・ 通年 ・ 集中							
授業形態	講義 ・ 演習 ・ 実習 （ 50 分/ コマ）							
教科書・教材	プリント配布 スケッチ用紙・筆記用具・模型製作用道具							
評価基準	定期試験・臨時試験等				%	到達目標	・様々な店舗の基本的な設計プロセスを身につける。 ・設計図書で正確な表現が出来る。 ・イメージ（模型やパースなど）で企画意図を第三者へ伝えることが出来る。 【事前学習】授業でのアドバイスを設計に活かし作業を進	
	課題 ・ レポート				75 %			
	出席数・授業態度				25 %			
	その他（				%			
回	時間	授業内容				回	時間	授業内容
1	4	授業概要説明・第1課題「物販店のデザイン」出題				10	4	中間発表
	5	課題テナント現地見学					5	〃
	6	〃					6	エスキス
2	4	第1課題「物販店のデザイン」解説1				11	4	エスキス・ディスカッション・プレゼン準備
	5	〃					5	〃
	6	エスキス・ディスカッション					6	〃
3	4	第1課題「物販店のデザイン」解説2				12	4	エスキス・ディスカッション・プレゼン準備
	5	〃					5	〃
	6	エスキス・ディスカッション					6	〃
4	4	中間発表				13	4	プレゼンテーション・講評（合同プレゼン）
	5	〃					5	〃
	6	エスキス・ディスカッション					6	〃 課題提出
5	4	エスキス・ディスカッション・プレゼン準備				14	4	第3課題「飲食店のデザイン」出題
	5	〃					5	第3課題「飲食店のデザイン」解説1
	6	〃					6	エスキス
6	4	プレゼンテーション・講評（合同プレゼン）				15	4	第3課題「飲食店のデザイン」解説2
	5	〃					5	エスキス・ディスカッション
	6	〃 課題提出					6	〃
7	4	第2課題「美容院のデザイン」出題				16		
	5	第2課題「美容院のデザイン」解説1						
	6	エスキス						
8	4	第2課題「美容院のデザイン」解説2				17		
	5	エスキス・ディスカッション						
	6	〃						

9	4 5 6	第2課題「美容院のデザイン」解説3 エスキス・ディスカッション 〃	18		

科目名	ショップデザイン2		必修	選択	担当教員	土井久頭（実務経験有）		
学科・学年	インテリアデザイン		学科	2 学年	授業概要	店舗のデザイン・設計演習を行う。 各業種に必要な機能を理解しながら総合的な設計を行う。 【実務経験】ドイアンドパートナーズ一級建築士事務所での設計の経験を活かし、設計プロセスを教える		
授業数	3 時間 × 15 週 合計 45 時間			3 単位				
授業期間	前期 ・ 後期 ・ 通年 ・ 集中							
授業形態	講義 ・ 演習 ・ 実習 （ 50 分/ コマ）							
教科書・教材	プリント配布 スケッチ用紙・筆記用具・模型製作用道具							
評価基準	定期試験・臨時試験等				到達目標	・様々な店舗の基本的な設計プロセスを身につける。 ・設計図書で正確な表現が出来る。 ・イメージ（模型やパースなど）で企画意図を第三者へ伝えることが出来る。 【事前学習】授業でのアドバイスを設計に活かし作業を進		
	課題 ・ レポート						75 %	
	出席数・授業態度						25 %	
	その他（						%	
回	時間	授業内容			回	時間	授業内容	
1	4	第3課題「飲食店のデザイン」解説3			10	4	エスキス・ディスカッション	
	5	エスキス・ディスカッション				5	〃	
	6	〃				6	〃	
2	4	中間発表			11	4	中間プレゼン（合同プレゼン）	
	5	〃				5	〃	
	6	エスキス・ディスカッション				6	〃	
3	4	エスキス・ディスカッション・プレゼン準備			12	4	エスキス・ディスカッション	
	5	〃				5	〃	
	6	〃				6	〃	
4	4	エスキス・ディスカッション・プレゼン準備			13	4	プレゼン準備・ディスカッション	
	5	〃				5	〃	
	6	〃				6	〃	
5	4	プレゼンテーション・講評（合同プレゼン）			14	4	プレゼン準備・ディスカッション	
	5	〃				5	〃	
	6	〃 課題提出				6	〃	
6	4	第4課題 卒業制作			15	4	プレゼン準備・ディスカッション	
	5	エスキス・ディスカッション				5	〃	
	6	〃				6	〃	
7	4	エスキス・ディスカッション			16	卒業制作講評会（プレゼン）		
	5	〃						
	6	〃						
8	4	エスキス・ディスカッション			17			
	5	〃						
	6	〃						

9	4 5 6	エスキス・ディスカッション 〃 〃	18		

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
空間デザイン		インテリアデザイン学科/2年	2019/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
50分	78回	6単位 (78時間)	選択	島谷 将文 (実務経験有)
授 業 の 概 要				
<p>プロダクトと空間の設計・デザインについて、演習課題を通して、技術と知識を習得する。</p> <p>前期、後期課題共、一つの課題に対し、それぞれの分野のプロを招き、島谷と一緒に課題を考え、プレゼンテーションに参加します。(例:本と空間 (本屋亭主)本を購入する行為を誘発するプロダクト・空間等)外部との繋がりをもたせる事で、生徒に学校内だけでなく、外部のリアルな状況を把握する事でより実践的な課題が取り組みます。課題によっては1/1の実寸を作ることで、実際の仕組みや工具の使い方なども理解する。</p> <p>【実務経験】ハンクラデザインでの経験を活かし、(設計)の考え方および作業プロセス及び技術を教える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・プロダクト・空間の考えかた アイディアの出し方を理解できる ・コンセプトを導き、設計内容やプレゼンテーションに反映させる <p>(発展的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に外部との関わりを行い、固定概念にとらわれられず、設計、デザインを考えられる 				
回	テ ー マ	内 容		
1-3	家具模型を作る	1：課題説明、カッター、 道具の使い方説明 2： 模型制作 3：講評会		
4-21	本と空間 ・写真と空間	1w：課題説明、各分野の経験者紹介、アイデア・スケッチ・模型制作 2w：アイデア・スケッチ・模型制作 3w：アイデア・スケッチ・模型制作 4w：アイデア・スケッチ・模型制作 5w： アイデア・スケッチ・模型制作 6w：プレゼンテーション・講評会(課題どちらか)		
22-39	本と空間 ・写真と空間	1w:アイデア・スケッチ・模型制作 2w:アイデア・スケッチ・模型制作 3w:アイデア・スケッチ・模型制作 4w:アイデア・スケッチ・模型制作 5w: アイデア・スケッチ・模型制作 6w:アイデア・スケッチ・模型制作		
40-42	本と空間 ・写真と空間	プレゼンテーション・講評会(課題どちらか)		
43-60	本と空間 ・写真と空間	1w：課題説明、各分野の経験者紹介、アイデア・スケッチ・模型制作 2w：アイデア・スケッチ・模型制作 3w：アイデア・スケッチ・模型制作 4w：アイデア・スケッチ・模型制作 5w： アイデア・スケッチ・模型制作 6w：プレゼンテーション・講評会(課題どちらか)		
61-78	素材と空間 ・不動産と空間	1w:アイデア・スケッチ・模型制作 2w:アイデア・スケッチ・模型制作 3w:アイデア・スケッチ・模型制作 4w:アイデア・スケッチ・模型制作 5w: アイデア・スケッチ・模型制作 6w:プレゼンテーション・講評会(課題どちらか)		

回	テーマ	内 容		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
模型制作道具一式		授業態度(出席を含む)	20.0%	空間に付随するモノやコトとの関係性について,デザインを学びます。 【準備学習】 授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること. 専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常に準備しておくこと.
		課題・レポート	80.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
建築CAD製図3		インテリアデザイン/2年	2019/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
50分	78回	6単位(78時間)	必須	盛岡 隆治 (実務経験有り)
授 業 の 概 要				
<ul style="list-style-type: none"> ・CADシステムを扱う上で、必要な基礎知識を習得する。 ・必要な資料から平面図、立面図をJWCADを使用して作図する。 ・建築CAD検定試験3級、2級、準1級の受験対策と、JWCADの基本操作を実際に作図しながら、より円滑な操作の習得を目指す。 【実務経験】 浅葱建築工房でのCADによる設計実務経験を活かし、考え方および作業プロセス及び技術を教える。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・建築CAD検定試験3級及び2級の取得(2級取得者は準1級の取得) ・簡単な作図の時点でさまざまな作図方法を試し、現時点での自分に合った効率のよい作図方法をみつける。 ・ある程度の資料から平面図、立面図等がCADシステムを利用して作図できる。 				
回	テ ー マ	内 容		
1～6	検定課題の概要の説明,Jw_cad 概要、操作の復習。 3級過去問題による練習 課題1	1w:検定内容の説明操作の復習。3級過去問題プリント又はテキストによる練習 課題1 2w:3級過去問題プリント又はテキストによる練習 課題1		
7～15	木造平面詳細図の作図(2級過去問題) 課題2	1w:2級過去問題プリント又はテキストによる平面詳細図の練習 課題2 2w:2級過去問題プリント又はテキストによる平面詳細図の練習 課題2 3w:2級過去問題プリント又はテキストによる平面詳細図の練習 課題2		
16～21	木造立面図の作図(2級過去問題) 課題3	1w:2級過去問題プリント又はテキストによる立面図の練習 課題3 2w:2級過去問題プリント又はテキストによる立面図の練習 課題3		
22～36	2級過去問題による小テスト形式【2問題】(質問受付有り) 課題4	1w:2級過去問題プリントによるテスト形式の練習【問題1】 課題4 2w:2級過去問題プリントによるテスト形式の練習【問題1】 課題4 3w:2級過去問題プリントによるテスト形式の練習【問題2】 課題4 4w:2級過去問題プリントによるテスト形式の練習【問題2】 課題4 5w:問題1、問題2の評価講評の上、修正		
37～39	2級検定問題の総復習	2級過去問題、主に立面図を使用し総合的な復習(夏休み)		
40～45	2級3級過去問題による練習 課題1	1w:2級平立面2週で1問題。 3級階段、柱壁、寸法、窓を2週で2問題 課題1 2w:2級平立面2週で1問題。 3級階段、柱壁、寸法、窓を2週で2問題 課題1		
46～51	2級3級過去問題による練習 課題2	1w:2級立面2週で2問題。 3級階段、柱壁、寸法、窓を2週で2問題 課題2 2w:2級立面2週で2問題。 3級階段、柱壁、寸法、窓を2週で2問題 課題2		
52～60	2級3級過去問題による小テスト形式【2級1問題、3級2問題以上】(質問受付有り) 課題3	1w:2級平立面2週で1問題。 3級階段、柱壁、寸法、窓を2週で2問題 課題3 2w:2級平立面2週で1問題。 3級階段、柱壁、寸法、窓を2週で2問題 課題3 3w:総復習テスト対策		
61～89	CADによる図面表現の練習 課題4	1w:実例による作図の確認、CAD操作応用面積計算表計算等 2w:スケッチアップ作図練習 課題4 3w:スケッチアップ作図練習 課題4		
70～78	CADによる図面表現の練習 課題4	卒業制作の作図、具体的な図面を書き始める		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書:建築CAD検定試験 公式ガイドブック 課題資料:プリント配布 教材:三角スケール、マーカー等		出席授業態度	40.0%	操作するところから、作図表現できるまでステップアップできるよう学習します。 【準備学習】 操作に慣れることで見えてくるものがあります、CADに接する時間を増やしましょう。
		課題、小テスト	60.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
建築法規		インテリアデザイン学科／2年	2019／通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
50分	30回	2単位(30時間)	必須	岡田英治 (実務経験有)
授 業 の 概 要				
<p>社会で実際に建築行為等をする場合には法規を避けて通ることはできません。 規制である反面、より良い都市・建築環境を創るためのバイブルでもあります。 1年次に製図の授業で作図した住宅等をモデルに、建築基準法を中心にその内容を解説していきます。 【実務経験】 設計事務所(浅葱建築工房)での新築・増改築・用途変更等の設計及び確認申請業務経験を活かし、建築法規と、法規と設計との関わりについて教示する。</p>				
授業終了時の到達目標				
一戸建ての住宅を設計する際に必要となる法令知識を身につける。				
回	テ ー マ	内 容		
1	ガイダンス イントロダクション	授業の注意事項、概要説明。 建築基準法とはどのようなものか。		
2～4	総括的規定1	1w:建築基準法の基礎知識(1章-1) 2w:用語の定義1(1章-2) 3w:用語の定義2(1章-5)		
5～12	実態的規定－集団規定1	1w:都市計画区域(3章-1)、用途地域(3章-3) 2w:防火指定(3章-3) 3w:道路(3章-2) 4w:面積(3章-4)容積率 5w:面積(3章-4)建ぺい率 6w:高さ(3章-5)高さ制限、道路斜線 7w:高さ(3章-5)隣地斜線、北側斜線 8w:高さ(3章-5)斜線制限の緩和、天空率		
13	前期末考査	(この週までを前期評価の対象とする。)		
14	前期末考査の解説	前週に行った考査の解説を行う。		
15	実態的規定－集団規定2	高さ(3章-5)日影規制		
16～19	実態的規定－単体規定	1w:採光(2章-1) 2w:換気(2章-2) 3w:一般構造(2章-3) 4w:設備(2章-4)		
20～25	実態的規定－防火・避難規定	1w:用語の定義(4章-1) 2w:火災に対する構造(4章-2) 3w:耐火要求(4章-3)、法22条区域(4章-4) 4w:防火区画・内装制限(4章-5) 5w:避難施設(5章-1) 6w:非常用の避難施設(5章-2)		
26	実態的規定－構造規定	構造計算の基準(6章-1)、構造規定(木造)(6章-2)		
27	総括的規定2	手続き規定(1章-3・4)		
28	その他	その他の規定(7章)、関係法令(8章)		
29	後期末考査	(この週までを後期評価の対象とする。)		
30	後期末考査の解説 総括	前週に行った考査の解説を行う。 本授業の総括を行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書:図説 やさしい建築法規 参考書:建築基準関係法令集2019年度版 初学者の建築講座 建築製図 第3版 (1年次製図教科書) 教材:配布プリント		考査	80.0%	プロである以上関係法令は知らないでは済まされません。基本をしっかり学習します。 【準備学習】 教科書を一読しておくこと。
		出席率・授業態度	20.0%	

科目名	構 造		必修 選択	担当教員	梶田伸一 実務経験有	
学科・学年	インテリアデザイン		学科 2 学年	授業概要	木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造それぞれ、材料の特徴を理解習得する。 木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造それぞれの構造形式・構成を理解習得する。 主体構造によって使用する材料違い、各部のつくり方の違いについて理解習得する。	
授業数	1 時間	×	15 週	合計	15 時間	1 単位
授業期間	前期 ・ 後期 ・ 通年 ・ 集中					
授業形態	講義 ・ 演習 ・ 実習 (50 分/ コマ)					
教科書・教材	建築構造(実教出版) 構造用教材(丸善)					【実務経験】手島建設・伸建築設計での施工現場及び設計の経験を活かし具体的で実践的な指導を目指す。
評価基準	定期試験・臨時試験等		50 %	到達目標	木材の特徴と各構造の骨組み構成を理解する。 木造の耐力壁の考え方を理解する。 【事前学習】授業範囲を必ず目を通す。疑問に思ったことなどメモする、また、Webなどで自分で調べてみるなどの準備をする。	
	課題・レポート		25 %			
	出席数・授業態度		25 %			
	その他 ()		%			
回	時間	授業内容		回	時間	
1		シラバスの説明～建築構造のあらまし 自己紹介 1章. 建物にはたらく力と構造計画 はじめに P.8～P.9		10		第2章 木構造 3. 在来工法 P.66～P.69 接合部
2		1章. 建物にはたらく力と構造計画 1. 建物にはたらく力 P.10～P.14 2. 地震に対する対策 P.15～P.18 3. 建物全体の構造計画 P.19～P.20		11		第2章 木構造 4. 枠組壁工法 P.70～P.74
3		第2章 木構造 P.21 1. 木材 P.22～P.26 木材の特徴 木質材料		12		振り回りプリント配布
4		第2章 木構造 2. 木構造の基礎知識 P.27～P.29 木構造の特徴 構造形式		13		前期期末試験
5		第2章 木構造 3. 在来工法 P.30～P.36 基礎・地業 軸組		14		前期期末試験解説 木造軸組模型作成
6		第2章 木構造 3. 在来工法 P.37～P.45 軸組 前半 振り回りプリント		15		木造軸組模型作成 前期のまとめ
7		第2章 木構造 3. 在来工法 P.46～P.51 柱頭・柱脚金物の位置基準 耐力壁の壁量計算		16		
8		第2章 木構造 3. 在来工法 P.52～P.58 耐力壁の配置 小屋組		17		

9		第2章 木構造 3. 在来工法 P.59～P65 床組 階段 接合部	18		

科目名	構 造			必修選択	担当教員	梶田伸一 実務経験有	
学科・学年	インテリアデザイン 学科			2 学年	授業概要	建物にはたらく力は、どのような力が有るか理解する。 木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造それぞれ、材料の特徴を理解習得する。 木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造それぞれの構造形式・構成を理解習得する。 主体構造によって使用する材料違い、各部のつくり方の違いについて理解習得する。 【実務経験】手島建設・伸建築設計での施工現場及び設計の経験を活かし 具体的で実践的な指導を目指す。	
授業数	1 時間	×	15 週	合計 15 時間		1 単位	
授業期間	前期 ・ 後期 ・ 通年 ・ 集中						
授業形態	講義 ・ 演習 ・ 実習 (50 分/ コマ)						
教科書・教材	建築構造(実教出版) 構造用教材(丸善)						
評価基準	定期試験・臨時試験等			50 %	到達目標	木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造の特徴と各構造の 骨組み構成を理解する。 【事前学習】授業範囲を必ず目を通す。疑問に思ったことなどメモする、 また、Webなどで自分で調べてみるなどの準備をする。	
	課題・レポート			25 %			
	出席数・授業態度			25 %			
	その他 ()			%			
回	時間	授業内容			回	時間	授業内容
1		第3章. 鉄骨造 1. 鋼材 鋼材の特徴 P.76～ 鋼材の形状 P.80～			10		第7章 下地と仕上げ 1. 防水 P.158～ 2. 各部の下地と仕上げ P.161～ 屋根
2		第3章. 鉄骨造 2. 鉄骨造の基礎知識 P.81～P.84 鉄骨造の特徴 構造形式			11		第7章 下地と仕上げ 2. 各部の下地と仕上げ P.161～ 屋根 壁 床 天井
3		第3章. 鉄骨造 3. 鉄骨構造 P.85～P.104 接合 部材の設計 各部の構造 床板 ・ 階段 ・ 耐火被覆			12		第7章 下地と仕上げ 2. 各部の下地と仕上げ P.161～ 天井 3. 開口部 P.179～ 4. 階段 P.182～ 5. 和室 P.184～
4		第4章 鉄筋コンクリート造 1. コンクリートと鉄筋 P.106～P.114 コンクリートの特徴 鉄筋の特徴			13		振り返りプリント 後期期末試験予告
5		第4章 鉄筋コンクリート造 2. 鉄筋コンクリート造の基礎知識 P.115～P.118 鉄筋コンクリート造の特徴 鉄筋コンクリート造の原理 構造形式			14		後期期末試験
6		第4章 鉄筋コンクリート造 3. 鉄筋コンクリート構造 P.119～P.134 鉄筋の配筋計画 各部構造 階段			15		後期期末試験解説 後期のまとめ
7		第4章 鉄筋コンクリート造 4. 壁式鉄筋コンクリート造 P.135～P.138 壁式鉄筋コンクリート造 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造			16		
8		第5章 その他の構造 1. 鉄骨鉄筋コンクリート造 P.141～ 2. 補強コンクリートブロック造 P.143～ 3. プレストレストコンクリート造 P.147～			17		

9		第6章 基礎 1. 基礎 P.150～ 2. 地盤 P.155～	18		

科目名	構造力学			必修選択	担当教員	梶田伸一 実務経験有	
学科・学年	インテリアデザイン			学科	2 学年	授業概要	建築物を構造設計するための構造力学の基礎知識を理解し習得する。力や設計荷重を理解し、建築物に発生する荷重の影響を想定する。単純梁・片持ち梁を力学的に理解する。構造物に発生する応力を解析できる。構造解析から部材設計への応用を理解する。 【実務経験】手島建設・伸建築設計での施工現場及び設計の経験を活かし、具体的で実践的な指導を目指す。
授業数	1 時間	×	15 週	合計	15 時間	1 単位	
授業期間	前期 ・ 後期 ・ 通年 ・ 集中						
授業形態	講義 ・ 演習 ・ 実習 (50 分/ コマ)						
教科書・教材	建築構造力学1(学芸出版社) 構造用教材(丸善)						
評価基準	定期試験・臨時試験等			50 %		到達目標	力の種類と大きさ、支持要素、変形などについて理解する。 1) 力の釣り合い式を使いこなせる。 2) 静定構造物に発生する反力・応力が求められる。 【事前学習】授業範囲を必ず目を通す。疑問に思ったことなどメモする、また、Webなどで自分で調べてみるなどの準備をする。
	課題・レポート			25 %			
	出席数・授業態度			25 %			
	その他 ()			%			
回	時間	授業内容			回	時間	授業内容
1		シラバスの説明 構造に役立つ計算式			10		2章 部材に生じる力(応力) 2・2 応力の計算方法 + (反力) 片持ち梁 練習問題
2		構造力学の概説 序章 力の基礎 0・1 力の表現 0・2 力のモーメント			11		2章 部材に生じる力(応力) 2・2 応力の計算方法 + (反力) 単純ラーメン
3		序章 力の基礎 0・3 分布する力 0・4 力のつり合い			12		振り返りプリント
4		1章 反力 1・1 構造物の種類と表現			13		前期期末試験
5		1章 反力 1・2 単純梁の反力 1・3 片持ち梁の反力			14		前期期末試験解説 木造躯体模型作成
6		1章 反力 1・4 ラーメンの反力 練習問題			15		木造躯体模型作成 前期のまとめ
7		2章 部材に生じる力(応力) 2・1 応力の種類 2・2 応力の計算方法 + (反力) 単純梁			16		
8		2章 部材に生じる力(応力) 2・2 応力の計算方法 + (反力) 単純梁			17		

		練習問題			
9		2章 部材に生じる力(応力) 2・2 応力の計算方法 + (反力) 片持ち梁	18		

科目名	構造力学			必修	選択	担当教員	梶田伸一 実務経験有	
学科・学年	インテリアデザイン			学科	2 学年	授業概要	建築物を構造設計するための構造力学の基礎知識を理解し習得する。力や設計荷重を理解し、建築物に発生する荷重の影響を想定する。単純梁・片持ち梁を力学的に理解する。構造物に発生する応力を解析できる。構造解析から部材設計への応用を理解する。 【実務経験】手島建設・伸建築設計での施工現場及び設計の経験を活かし、具体的に実践的な指導を目指す。	
授業数	1 時間	×	15 週	合計	15 時間	1 単位		
授業期間	前期 ・ 後期 ・ 通年 ・ 集中							
授業形態	講義 ・ 演習 ・ 実習 (50 分/ コマ)							
教科書・教材	建築構造力学1(学芸出版社) 構造用教材(丸善)							
評価基準	評価基準			50 %			到達目標	力の種類と大きさ、支持要素、変形などについて理解する。 1) 力の釣り合い式を使いこなせる。2) 静定構造物に発生する反力が求められる。 3) 静定構造物に発生する応力が求められる。4) 応力図が作図できる。 【事前学習】授業範囲を必ず目を通す。疑問に思ったことなどメモする、また、Webなどで自分で調べてみるなどの準備をする。
	課題・レポート			25 %				
	出席数・授業態度			25 %				
	その他 ()			%				
回	時間	授業内容				回	時間	授業内容
1		シラバスの説明 前期復習 1 力の表現 P.7～ 2 力のモーメントP.14～ 3 分布する力 P.16～ 4 力のつり合い P.18～				10		3章 静定構造の実用的開放 3・2 曲げモーメント図の作図法 P.65～67 単純梁 (集中荷重)
2		前期復習 1 反力の種類 P.23 ・ 応力の種類 P.30～P.33 2 単純梁の反力 ・ 応力 ・ 応力図 P.24～25 ・ P.34～P.37 3 片持ち梁の反力 ・ 応力 ・ 応力図 P.27 ・ P.41～P.42				11		4章 静定トラスの開放 4・1 切断法 単純梁系 P. 83～P. 85 練習問題
3		1章 反力 ・ 2章 部材に生じる力(応力) 1・4 ラーメンの反力 P.28～ 2・2 応力の計算方法 単純ラーメン(集中荷重) 反力 ・ 応力				12		4章 静定トラスの開放 4・1 切断法 片持ち梁 P. 85～P. 86 練習問題
4		1章 反力 ・ 2章 部材に生じる力(応力) 2・2 応力の計算方法 単純ラーメン(集中荷重) 応力 単純ラーメン(集中荷重) 応力図				13		振り返りプリント 後期期末試験予告
5		1章 反力 ・ 2章 部材に生じる力(応力) 単純ラーメン(集中荷重) 反力 ・ 応力 練習問題				14		後期期末試験
6		1章 反力 ・ 2章 部材に生じる力(応力) 2・2 応力の計算方法 単純ラーメン(分布荷重) 反力 ・ 応力				15		後期期末試験解説 前・後期のまとめ
7		1章 反力 ・ 2章 部材に生じる力(応力) 2・2 応力の計算方法 単純ラーメン(分布荷重) 応力 単純ラーメン(分布荷重) 応力図				16		
8		1章 反力 ・ 2章 部材に生じる力(応力) 単純ラーメン(分布荷重) 反力 ・ 応力 練習問題				17		

9		3章 静定構造の実用的開放 3・1 せん断力図の作図法 P.55～57 単純梁（集中荷重）	18			

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
室内環境学		インテリアデザイン学科/2年	2019/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
50分	30回	2単位(30時間)	必須	松原 綾(実務経験有)
授 業 の 概 要				
<p>私たちを取り巻く自然環境、都市環境、地球環境、そして快適な室内環境の要素である【光・熱・空気・風・音】の基礎知識を学ぶ。これからの【環境共生住宅】の在り方、【快適で健康な居住環境】の在り方について講義する。</p> <p>【実務経験】設計事務所「アトリエmican」主宰の経験を活かし、自然環境を活かしつつ、設備機器で不足を補い、快適かつ省エネを意識した生活環境のつくり方を教える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>【光(自然光・人口光)・熱(温・暖)・空気(換気)・風(通風)音(遮音と防音)】の基礎を理解する。</p> <p>設計事務所「アトリエmican」での経験を活かし、室内環境をとりまく要素を知り、コントロールすることでより快適かつ省エネな暮らし方を提案できる考え方および作業プロセス及び技術を教える。</p>				
回	テ ー マ	内 容		
1～9	一章 光環境	1.2:室内環境の概要、室内の快適環境の考え方と手法 3:視覚 4:測光量 5:昼光、昼光利用法 6:人工照明の基礎知識① 7:人工照明の基礎知識② 8:色彩調節 色彩計画① 9:色彩調節 色彩計画②		
10～19	二章 温熱環境	10:熱の流れの基礎知識 11:住まいの熱環境① 12:住まいの熱環境 断熱性能を数値で表す 13:湿度と結露 到達度確認テスト配布 14:回答と解説 15:予備日 16:湿度と結露 体感温度 17:体感温度 18:日照と日射環境、日照と日射環境		
20～22	三章 空気環境	20:汚染物質・換気 21:換気・換気計画・通風計画 22:換気・換気計画・通風計画		
23～26	四章 音環境	23:音の性質・室内の音 24:音の性質・室内の音 25:室内の音響・騒音と振動 26:室内の音響・騒音と振動		
27	五章 地球環境	27:地球環境に関する用語		
28～30	後期試験	28:後期試験 29:解答と解説 30:予備日		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書:やさしい建築環境 資料・参考資料:プリント配布		定期試験・臨時試験等	80.0%	住環境に関する意識を高め、知識が身につくような講義とする。 【準備学習】 ・自分の住空間における環境設備に何があるか調べる。 ・自分の住空間における不満を知る。対策を考えてみる。
		出席数・授業態度	20.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会研究2		インテリアデザイン学科／2年	2019／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
50分	76回	7単位（76時間）	必須	西尾通哲、松尾兆郎
授業の概要				
学生間およびチューターとの個別およびグループアセスメント また、随時学校行事等に付随する自己学習内容の総合的時間とする				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を振り返る習慣が身に付く ・振り返りによって弱点や出来たことに自覚的になる 				
回	テーマ	内 容		
1～7	オリエンテーション	学校、学生生活、授業、スケジュール、学則等に関するレクチャー、学生生活の心得、その他準備等		
8～10	3 KAN教育について	学校の教育方針（3 KAN教育）、学習の方法等に関するレクチャー		
11～36	定期アセスメント	学生手帳等を活用した、週ごとの学習記録の情報共有と面談		
37～56	デザインイベントBRUCKE	デザインイベントで実施する（参加する）各種イベントの企画、運営、支援等		
57～76	研修旅行等 特別活動	自ら課題設定を行い、学習し、振り返って自分の創作に生かすまでを体験的に学習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
-		出席率 課題・レポート	50.0% 50.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえて、授業内で指示する。

科目名		住宅デザイン		必修・選択	担当教員	藤山信博 実務経験有			
学科・学年		インテリアデザイン		学科	2 学年	授業概要 住宅空間の考え方の基礎を学び、漠然とした「空間」というものを自分のコンセプト通りに操作できるようにする。また各課題を通して図面の描き方の基本事項を1年次より引き継ぐ。 【実務経験】 藤山建築デザイン事務所主催。 空間デザインの実務経験を活かし住宅の計画、設計を指導する。			
授業数		3 時間 × 13 週 合計 39 時間		3 単位					
授業期間		前期 ・ 後期 ・ 通年 ・ 集中							
授業形態		講義 ・ 演習 ・ 実習 (50 分/ コマ)							
教科書・教材		建築鑑賞入門							
評価基準		定期試験・臨時試験等		%	到達目標	住宅をデザインする上で、イメージ通りの空間を手描きで具現化できる。 【事前学習】 関連参考資料を準備し授業でのアドバイスを反映させる。			
		課題・レポート		70 %					
		出席数・授業態度		30 %					
		その他 ()		%					
回	時間	授業内容				回	時間	授業内容	
1	3	授業内容の説明、評価方法の説明 はじめに 建築とは何か、いかに知覚されるのか ・実習課題1、2の説明 デスク三面図トレース 自分の部屋にあったらいいな家具				10	3	四.エンヴェロープ 床 ・実習課題3	
2	3	一.鑑賞 三位一体 ・実習課題1(デスク三面図トレース提出) ・実習課題2(自分の部屋にあったらいいな家具 エスキース提出)				11	3	四.エンヴェロープ 窓 ・実習課題3	
3	3	二.建築 体験 ・実習課題2				12	3	四.エンヴェロープ 構造 ・実習課題3	
4	3	三.基本的事項 静的空間、動的空間 ・実習課題2				13	3	四.エンヴェロープ 材料、結合部 ・実習課題3発表、提出	
5	3	三.基本的事項 塑像的形態 ・実習課題2発表、提出				14			
6	3	三.基本的事項 骨格的形態 ・実習課題3の説明 マンションリノベーション				15			
7	3	三.基本的事項 平面的形態 ・実習課題3 エスキース提出				16			
8	3	四.エンヴェロープ 壁 ・実習課題3				17			
9	3	四.エンヴェロープ 屋根 ・実習課題3				18			

科目名		住宅デザイン		必修・選択		担当教員		藤山信博 実務経験有	
学科・学年		インテリアデザイン		学科		2 学年		授業概要 住宅空間の考え方の基礎を学び、漠然とした「空間」というものを自分のコンセプト通りに操作できるようにする。また各課題を通して図面の描き方の基本事項を1年次より引き継ぐ。 【実務経験】 藤山建築デザイン事務所主催。 空間デザインの実務経験を活かし住宅の計画、設計を指導する。	
授業数		3 時間 × 13 週		合計 39 時間		3 単位			
授業期間		前期 ・ 後期 ・ 通年 ・ 集中							
授業形態		講義 ・ 演習 ・ 実習		(50 分/ コマ)					
教科書・教材		建築鑑賞入門							
評価基準		定期試験・臨時試験等				%		到達目標 住宅をデザインする上で、イメージ通りの空間を手描きで具現化できる。 【事前学習】 関連参考資料を準備し授業でのアドバイスを反映させる。	
		課題・レポート				70 %			
		出席数・授業態度				30 %			
		その他 ()				%			
回	時間	授業内容				回	時間	授業内容	
1	3	五.様式 プロポーション ・実習課題4の説明 住宅の設計				10	3	九.経済 単純性、コスト ・実習課題4	
2	3	五.様式 スケール ・実習課題4				11	3	九.経済 エネルギー ・実習課題4	
3	3	五.様式 スケール ・実習課題4				12	3	十.時間的特質 持続する特質 ・実習課題4	
4	3	六.物理的な環境 敷地 ・実習課題4 エスキース提出				13	3	十一.設計 設計のプロセス ・実習課題4発表、提出 プレゼン提出	
5	3	六.物理的な環境 光 ・実習課題4				14	1		
6	3	七.心理的な環境 影響 ・実習課題4				15	1		
7	3	七.心理的な環境 所有 ・実習課題4				16			
8	31	七.心理的な環境 にせものの性、色 ・実習課題4 手描き図面提出				17			
9	3	八.社会が必要としているもの 社会 ・実習課題4				18			

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
建築CAD応用		インテリアデザイン学科／2年	2019／通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
50分	90回	6単位(90時間)	必須	西尾 通哲 【実務経験有】
授 業 の 概 要				
複数のCADソフトウェア及びフォトレタッチソフト等を用いて設計図書作成及びプレゼンテーション技術を磨く。				
【実務経験】240design・西尾通哲建築研究室での設計実務経験を活用し、魅力的なプレゼンテーション資料の作成技術のポイントを伝授する。				
授業終了時の到達目標				
①2次元CADを利用して、設計課題の図面をより分かりやすく描くことができる。 ②3次元CADを利用して、設計課題のパース描画ができる。 ③3次元データをもとに、レタッチソフト等でモンタージュ、コラージュを作成できる。 ④レイアウト基礎、グラフィックデザイン基礎について理解できる。				
回	テ ー マ	内 容		
1～3	授業オリエンテーション 即日課題	課題①ゴゴノイエ:延床25㎡で自分一人の空間をデザインし、CGで仕上げる。		
4～90	CGパース作成指導、確認課題および、設計課題のCADデータ作成、他ソフトへの展開と応用	専攻授業で設計した空間のCADデータ作成 (評価のための提出は随時指示する)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
-		出席率	20.0%	出席率は授業態度を含めます。 【準備学習】良質なプレゼンテーションを見て分析する視点を養っておくこと。
		課題・レポート	80.0%	